

「応援します！！あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 72 号 令和5年12月

福島市中町8番2号
発行元 公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

令和5年度「ふくしま農業人フェア」 を開催しています！

福島県主催の就農相談イベント「ふくしま農業人フェア」が、今年も10月29日の県北地域（福島市）を手始めに県内4会場で開催されています。（最終開催：12月17日いわき市）

このフェアに、当公社の就農支援センターが今年度、新たに設置された「福島県農業経営・就農支援センター」の構成員として出展し、これから福島県の農業をリードしていく担い手の確保・育成を図るための相談活動を行っており、各会場において、農業法人や農業関係機関・団体など、20を超える相談ブースが出展し、就農支援制度や雇用情報等新規就農に関する様々な相談に対応しています。

各会場とも、「センター」では20組以上の相談を受けていますが、今年の傾向として、30歳代後半以降の来場者の方々が多く、転職による就農や定年近くでの就農を相談する方々から、

- ・「農業を始めたいが、何から始めれば良いのか？」
 - ・「就農のための農地はどうすればよいのか？」
 - ・「就農する際に活用できる支援策は？」
- などの相談をいただいています。

いただいた相談につきましては、各関係機関・団体と連携・協力しながら、内容に応じてサポートしていきます。

今後とも、就農に関する相談は随時受け付けていますので、就農に興味のある方は、お

気軽に、当公社（就農支援センター）のHPからメール相談、または電話等でご相談ください。



（県北会場 ～福島市）



（県中会場 ～郡山市）

福島県への農業参入を促進

～農業参入フェア2023が開催～

農林水産省主催による「農業参入フェア2023」が、10月24日に東京都の東京国際フォーラム、11月2日に大阪府のグランキューブ大阪にて開催されました。

このフェアは農業分野への参入に関心のある企業を対象として、全国の都道府県や農地中間管理機構、農業関係団体などがブースを出展し、各種支援制度や農地の確保等についての相談に対応するものです。

昨年に引き続き、多くの企業担当者の方が来場し、農業分野の盛り上がりを感じるイベントとなりました。



(セミナー会場の様子)

会場では相談ブースの他にも、農業参入に関するセミナーや事例紹介が行われ、参加者

は熱心に耳を傾けていました。

当公社も県内の関係機関・団体とともに相談ブースを出展し、福島県の農業の魅力やPRしながら、県内への農業参入に意欲的な企業からの相談を多数いただきました。会津、中通り地域はもちろん、浜通り地域、特に被災地域への参入に関心のある企業も多かったことから、着実な復興に繋がることを期待しています。



(福島県ブースの様子)

当公社では、引き続き関係機関・団体と連携し、県内への農業参入希望者や新規就農希望者を支援してまいりますので、お気軽にご相談ください。

原子力被災12市町村農地中間管理事業連絡調整会議を開催

～営農再開加速化に向け連携を強化～

11月22日に楡葉町コミュニティーセンターにて、「原子力被災12市町村農地中間管理事業連絡調整会議」を開催しました。

この会議は、原子力被災12市町村における農地中間管理事業を活用した農地集積・集約化の加速化を目的として、関係機関・団体の情報共有などを行うものです。

会議では、市町村をはじめ、多数の関係者の皆様に御参加いただき、共有者不明農地の取扱いなどに関する情報を共有するとともに、各市町村が抱える農地中間管理事業推進上の諸課題に対して、意見交換を行いました。

また、会議には東北農政局にも御出席を頂き、今般の農業経営基盤強化促進法等改正を受けての被災12市町村における農地中間管理事業の推進や機構集積協力金など各種関係事業について御説明を頂きました。

今後も本会議等を通じて、原子力被災12市

町村の営農再開に向けた関係機関・団体の連携強化を図ってまいります。今後とも関係する皆様の御協力をお願いします。



(会議の様子)

「福島県農業経営・就農支援センター」が本格的に始動しました!

本年4月、福島市の県自治会館一階に、県と3農業関係団体が連携し、「福島県農業経営・就農支援センター」がワンフロア・ワンストップ体制でスタートしました。農業者等からの様々な相談への対応業務を行っており、当公社は、その事務局機能を担っています。

センター発足以来、10月末までの7ヶ月間で、相談は計760件(前年対比179%)



【福島県しごと&くらしフェア(10/1東京都)での相談対応～中央ブース～】

に上っており、そのうち、新規就農関連が528件、農業経営全般に係るものが197件などとなっています。

センターでは、来訪された相談者への対応ばかりではなく、県農林事務所に設けられた7カ所のサテライトでの受付、さらには、様々な県内外で開催されるイベントへ「お出掛け相談コーナー」を設置するなどの取組も展開しています。

本年度後半には、県と当センターが共催し、就農促進のためのセミナーも開催する予定ですので、本ニュースをご覧の読者の皆さん、今後とも、当センターをお気軽にご活用ください。



【県政広報番組 おしえてキビタン「福島県で農業しよう!」】

農地バンクの現場から

福島県農地中間管理機構
県南拠点
地域マネージャー

添田 末次

私は、平成28年4月から農地バンクの県南地域マネージャーとして、白河市をはじめ1市4町4村の市町村担当職員の方々と連携しながら、農地中間管理事業を活用した農地集積・集約化の推進をお手伝いしています。

最近では、特に大きな活動として、泉崎村の原地区において、農地中間管理機構関連農地整備事業の実施を契機とし、「地域まるっと中間管理方式」を採用した一般社団法人「原ドリームコミュニティ」の設立と、事業対象となる農地約119ha全てを同法人が地区の担い手として借り受ける利用権設定のサポートを行いました。

この地域の取組は、ほ場整備事業をきっかけに、地域の方々が課題に向き合い、解決への方向性について、話し合いを重ねることにより合意形成していった点が、成果に結びついたものと考えています。

地域農業を取り巻く情勢が大変厳しくなる中、新規就農者を含めた担い手の確保及び農用地の効率的かつ総合的な利用を図っていくことが重要となっています。

このため、地域における農業の将来の在り方等を明確化する地域計画の策定に当たっては、

県や各市町村と連携し、地域が抱える具体的な課題を少しでも解決できるようサポートしていくという視点を大切にしていきたいと思います。ですので、今後とも引き続きどうぞよろしくお願いたします。



(調印会にて契約内容の説明を行う添田MG)

「大好きな牛とともに この地で」 二本松市 渡邊 大介

二本松市岳地区で酪農家としての道を歩みはじめ3年目をむかえようとしています。

高校卒業とともに地元の牧場に就職。約4年間、雇用就農として従事しましたが、大変さもあって、一旦は別の仕事も経験しました。

しかし、やはり自分にとってやりたいこと、やりがいのある仕事は何かを考えたとき、大好きな牛を相手にできる酪農ヘルパーとして、もう一度酪農に携わることにしました。

約11年間、酪農ヘルパーとして様々な農家さんと関わり、経験を深めていく中で、自分も酪農家として牧場を経営したいというかねてからの夢がより強くなっていたころ、利用いただいていた農家さんが、健康面の不安から離農することとなり、その経営を承継させていただくこととなりました。

若い人が新規で酪農家として就農するのは、初期投資の面でもとてもハードルが高いですが、青年等就農資金も活用して、牛、施設などを含め一体的に経営を引き継ぐことができました。

牧草地の借受けについては、就農相談の際に勧められたこともあり、1年目から農地中間管理事業を利用しています。粗飼料については100%自給できており、飼料代や農業資材、光熱水費など様々なものが高騰する昨今の状況においては、経営面で非常に大きなメリットとなっています。

現在、牧草地は約27ha借受けていますが、そのうち約20haを農地中間管理事業で借りています。何ととっても、毎年の賃借料精算を農地バンクがやってくれますので、その点

は非常に助かっています。更に、ご近所さんから草地を引き受けてほしいとの声がありますので、その際も、積極的に農地中間管理事業を利用する予定です。

岳地区も、畜産農家の高齢化が進み、離農される方がどんどん増えていて、自分のような若い世代は今後さらに貴重な存在になってきます。はじめに譲り受けた乳牛は25頭で、現在は30頭です。将来的には、乳牛を50頭くらいに増やすことを目標としています。

物価高騰に加え、近年は、夏の猛暑により牛の熱中症対策にも気を配らなければならなかったりと、大変なことも多いですが、地区の酪農を守っていくためにこれからも頑張っていきたいと思います。



編集後記

北風木の葉を払う季節。夏の日差しは遠くなり、夕暮れを黄色く染めている。

勢い勇んで始まった私の2023年も、気付けば変わらぬ年の瀬を迎えようとしている。するする流れていった今年を思い、家路の途中に少しつむく。これも思えば恒例である。

これではいけない。何もなかった今年は、つつがなく過ごせたということで良しとしよう。顔を上げて年を越え、迎えた春に希望を謳おう。少年老い易く学成り難し。足踏みしている時間はないのだ。

来年への期待を胸に、今日は早く帰って、ご飯を食べて寝る。これである。そして明日から頑張ることにしよう。夕暮れの寒空に金色の陽が差している。来年はいい年になりそうだ。

(渡邊 純平)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8階

公益財団法人福島県農業振興公社 総務企画課

TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <https://www.fnk.or.jp>